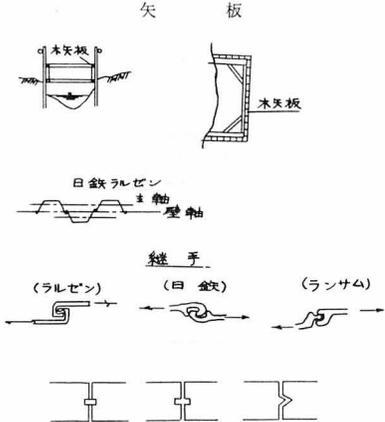


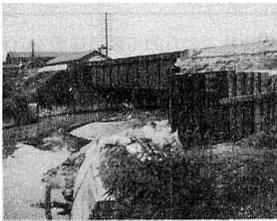
や

やいた 矢板 土留工事をする場合または構造物の根掘をする場合に、梁（はり）と地山との間にならべて打込む板等。これらの矢板には木矢板、シートパイル、特殊なものとしてPSC矢板等がある。根掘・切取および築堤の土留工事施工のためよく木矢板を利用するが、地下水以下の根掘工事および土圧の大きいところの土留等には、よくシートパイルを用いている。



1 木矢板

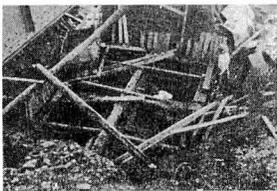
一般に松材を使用する。普通使用するものは厚さ3cm、幅18cm、長さ2~4mくらいのもので、特別の場合には厚さ10~15cm、幅30cmのものも用いている。この場合には水密性にするために、矢板を相欠きにすることもある。梁の組立と同時に、その外側に地山に接して矢板を打込むために、矢板の先はとがらせておく。



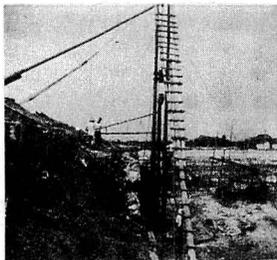
1. 木矢板による根掘

2 シートパイル(鋼矢板)

箱わく、木矢板の使用にかわって、近年はよくシートパイルを用いている。これは前記のものと異なり、強度もあり寿命も長いので、深さが深く、また大きい面積の根掘にはもつとも適し、また引抜き後の転用も可能なため、かえって経済的であり、橋梁工事、またはその他の基礎工事に盛んに用いられる。また災害等の際には、地盤の沈下、または小規模の地すべりを防止するために使用することもある。



2. 木矢板による根掘



3. シートパイル打込

あるいは護岸工事、根固め工事等に構造物の一部として、永久的に使用されるものもある。現在各種の型式のものが使用されているが、一般的のものは日鉄3型、ラルゼン、およびランサム型である。特殊型のシートパイルの混用によって、各種の形状に打込むこともできる。また異常な水圧および土圧に対して

は二重に打込み、その間に土砂またはコンクリートを打込む等、木矢板では到底不可能な工事も施工できる利点がある。継ぎ手部分はそれぞれ特殊の形をしており、水密性も木矢板と異なり効果ははるかに大きい。

3 PSC 矢板

締切工にはあまり使用されないが、護岸土留工等の永久構造物に近年使用されている。これはシートパイルにかわるものであって、だいたいシートパイルと同程度の工費を要し、転用はあまりきかないので経済的でないようである。しかし護岸工事等で、躯体の一部として使用するときには、経年による腐食もなく、よい結果を示している。(尾崎 寿)

やくがね 分岐器組立用レールの俗称。分岐器はポイント部、クロッシング部およびガード部の3部分からなりたっており、これらが適当に接続組立てられている。その接続組立てには、普通のレールが使用されるが、その長さはそれぞれの分岐器や、また分岐器内の場所によって寸法が定まっており、また必要な曲げ方もしてあるので、他の場所では、役に立たないものである。やくがねは現場でそれよりも長いレールから切りとって適当につくられる。(沢田謙二)

やくりとざんてつどう 八栗登山鉄道

1 事業者の概要

名称 八栗登山鉄道株式会社、会社設立 昭和3・12・27、本社 香川県木田郡牟礼村、資本金38万円、地方鉄道(鋼索線)

2 地方鉄道線

八栗登山口・八栗山上間(香川県)0.7km単線、動力電気、軌間1.067m、旅客輸送を目的とする。大正15・10・13免許、昭和6・2・15開業、昭和19・2より戦中の企業整備のため営業休止中。(嵯峨野福次)



やじません 矢島線

羽越本線羽後本荘駅から羽後矢島駅に至る23.0kmの線。羽越線に属し線路等級は簡易線である。大正11・8 羽後本荘・前郷間横荘鉄道株式会社の手によって開通したが、昭和12・9 政府に買収され矢島線と呼称、つづいて同線は奥羽本線院内付近に至る鉄道として建設が進められ、昭和13・10 羽後矢島まで開通したものである。(森 節寿)

やしまとざんてつどう 屋島登山鉄道

1 事業者の概要

名称 屋島登山鉄道株式会社 本社 高松市屋島中町、資本金500万円、おもな事業 地方鉄道(鋼索線)、一般乗用旅客自動車、物品販売。鉄道従事員24人、保有車両 鋼索車2両。

沿革 昭和2・3・30 会社設立、同4年より営業開始、昭和19・2 戦中企業整備のため休止し、同25・4 復活再開し現在に至る。

2 地方鉄道線

屋島登山口・屋島山上間(香川県)0.8km単線、動力電気、軌間1.067m、旅客輸送を目的とする鋼索鉄道、大正15・4・7免許、昭和4・4・21開業。

3 沿線の観光地 屋島山上のながめ

